

Cantabile

2009. March

Vol. 4

発行

山形県音楽教育連盟
山形県小中学校教育研究会音楽部会

発行日

平成21年3月31日



新学習指導要領をつけて

音楽科のこれから

山形県教育センター

指導主事 須藤 真

先日、ある高校の吹奏楽部の定期演奏会に行ってきました。部員はたったの十一名。しかしそこには、少人数とは思えない、いや、少人数だからこそと言えるすばらしい音楽がありました。そこまで育て上げた顧問の先生の熱意とそれに応えた部員のみなさんのがんばりに感激し「子ども（と高校生のみなさんに言ったら失礼かもしれませんが）の可能性は無限だ」という言葉をあらためてかみしめたところでした。

さて、昨年度末に学習指導要領が告示され、今年度七月には小学校・中学校における各教科等の学習指導要領解説が示されました。先生方におかれましては、すでにいろいろと勉強なさっていると思いますが、やはり気になるのは「ズバリ一言で言ったら、どう変わったの？」ということではないでしょうか。音楽科においては、小学校の目標は同じ。中学校の目標も「音楽文化についての理解を深め」が追加されましたが他は同じです。このことから、音楽科としてのねらい、方向性などは変わらなと言えそうです。内容においても、増えたものはほとんどなく表記のしかたを整理しただけとも言えます。

しかし、この表記の整理においても「この部分はもっと分かりやすく」とか「ここはもっと強調して」といったねらいや意図があると思います。

そのような視点で見ますと、重要なのはやはり「共通事項」の新設ではないでしょうか。くり返しますが、新設と言っても新たに内容が増えたわけではありません。中学校では、たとえ

ば従前の第一学年の表現Aのキ「音色、リズム、旋律、和声を含む音と音とのかわり合い、形式などの働きを感じ取って表現を工夫すること」などに示されていた音楽の諸要素が「共通事項」にまとめられました。小学校では、もつとあちこちにちりばめられていた諸要素についての表記が一気にまとまった感がありますので、新たに増えたような印象が強いかも知れませんが、より具体的に見えやすくなったと思います。

ここで「共通事項」が大切と言っても、実際、授業ではどうすればいいの？という声があるかもしれません。

音楽の授業において大切なのは、リズム、ハーモニー、強弱、テンポなど、その授業で指導する要素を明確にすることと言えます。授業の悩みとして、たとえば子ども達が生き生きと歌っていた。確かに楽しい時間だったのかもしれないが、その一時間で、子ども達が何を学んだのか、どんな力がついたのかなどは、今ひとつ見えない……そのようなことがあると思います。しかし、その解決の糸口は、音楽の要素を視点とすることで見えてきます。例をあげると、歌唱において指導できる要素はたくさんありますが、それらすべてを扱おうとすると結局どっちつかずになります。そこで、たとえば「強弱」の工夫に視点をしければ、子ども達はそれに向かって活動することができ、できたかどうかの評価もはつきります。

その意味でも、指導する音楽の要素を明確に示した「共通事項」は、今後の授業づくりのカギと言えます。

なお、移行措置につきましては、小・中学校とも、共通教材に関わることは平成二十一年度より先行実施となりますので、よろしく願います。

今後の予定としては、今年度内に高等学校学習指導要領を告示し、その後、評価については検討に入ることです。特に評価については現在の四観点でよいのかといった根本的なところから検討を行う予定だということを聞いておりますので、とても気になるところです。

最後に、私一人になりますが、県教育センターにお世話になり二年になりました。先生方のアイデアを生かした素敵な授業がたくさん展開されるように、先生方自身も音楽を楽しみながら「音楽大好き！」という子ども達でいっぱい学校をつくっていただけるように、そのお手伝いするのが私の役目です。音楽で何か困った時は「須藤先生に聞けば大丈夫」そんな存在になりたいと思っています。これまで同様、どんな小さなことでも、お気軽に声をかけていただければ幸いです。

(連絡先・県教育センター)

Tel 〇二二一六五四二二五五

E-mail: m-suto@center.yamagata-c.ed.jp



県合唱指導者講習会(中学校)

村山地区

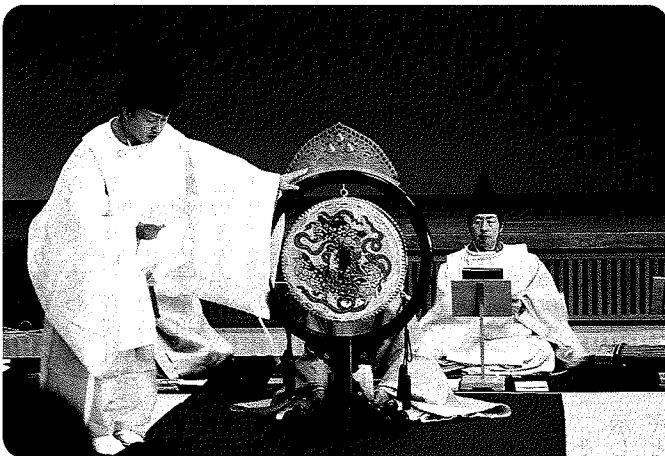
村山地区協議会では、県内の神社に仕えておられる方々をお招きして「雅楽演奏会」を開催しました。また、雅楽の歴史、演奏に使われた楽器について詳しく説明していただきました。

- ・期 日 平成二十年九月二十四日(水)
- ・会 場 山形市霞城公民館講堂
- ・演奏並びに講師
歌懸稻荷神社 禰 宣 吉福 雅登様
鳥海月山所宮 榎 宣 中野 裕美様
十文字天満神社 宮 司 奥山 浩樹様
寒河江八幡宮 榎 宣 鬼海 尚仁様
山形県護国神社 巫 女 青木ゆかり様
- ・演奏曲目
始め 平調の音取り 越殿楽
次 陪ろ
次 浦安の舞
次 遠き山に
- ・内 容

雅楽は、日本古来の歌舞と、五世紀〜九世紀にかけて伝来した大陸や朝鮮半島の楽舞が源流で、平安時代に大成しました。

西洋音楽との大きな違いに、指揮者がいない、ということと、楽器の配置があげられます。打楽器の鞆鼓が指揮の代わりをしますが、西洋音楽の指揮者のように絶対権限はなく、全体の流れをつかさどる役割を果たします。それぞれの楽器がスムーズに合奏できるよう配置され、後列の人が前列の奏者の手の動きを見ながら演奏するという阿吽の呼吸が求められます。

管楽器のなかでも、笙の音は天を、箏は地を、龍笛は天と地を結ぶ空間を表現していることなどの説明を受けて聴いた音楽は、現代の煩わしさから解放された、宇宙に心も体も委ねているような心地良いものとなりました。



となりました。

雅楽は、耳で聴くだけでなく、目で楽しみ、肌で感じたり、心のどこかで感じたりするものだと思います。雅楽は喜怒哀楽を表現しているのではなく、音色そのもの、舞の動きそのものを、あるがままに感じればそれでよいのだ、ということを感じました。生の雅楽にふれる機会も少ない私達にとって、とても貴重で有意義な研修ができました。日本

の伝統音楽の良さをぜひ子ども達にも伝えていこうと思います。

担当
佐藤(朝日中)
奥山(大谷小)

庄内地区

今年度、酒田飽海地区では、研究協議会を次のような日程で行いました。

- ・期 日 十一月十四日(金)
- ・会 場 酒田市立第四中学校
- ・授業者 佐藤 桂子教諭(中学二年生)
- ・題材 リズムを感じて

表現を工夫しよう

「打楽器のための小品を用いて、リズム打ちに集中して取り組む生徒の姿が、参観する側にも心地よさを感じさせる授業でした。限られた時間の中で、互いに自分の考えを出し合い、練り合いや聴き合う場が設定され、生徒達が所属感や成就感を感じることのできる授業でした。

授業後の話し合いでは、音楽を通して語り合うことの大切さや、小中九年間を見通して全身で感じる音楽作りについて話題になりました。

引き続き、全日本器楽指導協会の山下奈美先生より「表現力を拡げる指導のアイデア」の実技指導が行われました。基本的なリズム打ちに始まり、授業でもすぐに活用できるボーディーパーカッションやアンサンブルの指導法など、先生方も生徒になりきり楽しく充実した時間を過ごしました。表現する楽しさを味わえる授業づくりの大切さを実感した貴重な時間となりました。

【小学校】

- ・期 日 十二月十二日(金)
 - ・会 場 酒田市立八幡小学校
 - ・授業者 海藤 陽子教諭(小学一年生)
 - ・題材 ようすをおもいうかべよう
- 思い浮かべたイメージを生かして、表情豊かに歌うことをねらいとした授業でした。既習曲を歌ったり、リズム遊びや身体表現



担当 高橋(稲川小)
石川(遊佐中)

平成20年度 4地区・高等学校 研究協議会 あしあと

置賜地区

今年度の置賜地区音楽研究協議会では、宮城県仙台市立金剛沢小学校の大槻葉子先生をお迎えして、合唱の指導法についてご指導いただきました。

- ・期 日 平成二十年十月十四日(火)
- ・会 場 米沢市立六郷小学校
- ・講 師 宮城県仙台市立金剛沢小学校 大槻 葉子 先生
- ・内 容 合唱指導法
- (一) 全校合唱指導
米沢市立六郷小学校全校児童
合唱曲「Good Morning」
- (二) 指導者講習会
(主なご指導内容)

① 姿勢

体を十分に支えることができ、いざという時に耐えられる姿勢が適している。

② 呼吸

腹式呼吸で、自分の息を感じることが大切である。体のいろいろなところに空気が入っているのを感じ取るようにする。

③ 顔の筋肉、口の中、口形

いい歌声を響かせるには、意外に使っていないところ、意識していないところを動かす。

逆に使いすぎたりやりすぎたりしているところがあるので気をつける。

④ 発声、声の響き

歌声がつくられるところは、お腹や喉、頭はもちろんだが、あなをた



くさん開けて、空気の通り道をつくるイメージを持たせるようにする。

⑤ 発音

母音の響きに、いかに子音をはっきり乗せることができるかが重要である。

大槻先生からは、「歌うってステキ！合唱ってかっこいい！みんなが楽しく生き生き歌う合唱をしよう！」というテーマで合唱指導をしていただきました。「ミッキーさんのような声で」や「外人さんのような話し方」など、子ども達にわかりやすい言葉を変えながら、楽しく、生き生きと歌う方法をご指導いただきました。楽しく歌うことの大切さをあらためて感じ、これからの各学校での合唱指導で、すぐに生かしていくことができる研修会になりました。

担当 後藤(米沢西部小)

最北地区

今年度も、学習指導法研修会と実技研修会を最北地区の研修会として開催した。

○音楽科学習指導法研修会

- ・期 日 六月二十六日
- ・会 場 新庄市立泉田小学校
新庄市立萩野中学校

【小学校】

五年生三十名の学級。研究テーマをもとに、グループで表現方法を工夫し合ったり、演奏を聴き合ったりする活動を多く取り入れた授業であった。子ども達の歌声の豊かな響き、一人ひとりがしっかりと歌っている姿を見て、歌に向かう心構えを日常的に教師がきっちり指導していることの大切さを実感した。

【中学校】

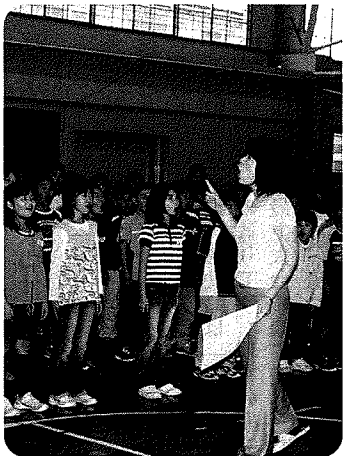
三年生三十名の学級。「通い合う心」の実現のために、生徒と教師、生徒同士のコミュニケーションを大切にしながら合唱を作り上げていく過程を中心とした授業であった。各パートでの話し合いを二回設定し、自分達から課題を見つけて解決しているようにしていた。

○音楽科実技研修会

- ・期 日 九月二十五日
- ・会 場 新庄市立沼田小学校
新庄市立八向中学校

【小学校】

講師の村上ゆかり先生(山形大学附属小学校)に四年生七十五名の学年合唱の指導



担当 福井(沼田小)

高等学校

県高等学校教育研究会芸術部会音楽専門部研究大会が六月十二、十三日の二日間に渡り、飽海地区において行われた。

研究授業では、県立酒田北高等学校の池田典子教諭が、同校二学年による音楽Ⅱの授業「楽典を学ぼう（鍵盤楽器を活用して）——和音とコードネーム——」を公開した。鍵盤から和音の構造を視覚的に捉えさせ、そこから音程関係を導くものであった。視覚と聴覚、そして弾くという作業（触覚）が融合し、感じて学ぶ経験から学習する意欲を引き出す素晴らしい授業であった。その後、午後に行われる器楽合奏の講習会に先立ち、研究大会開催地区である飽海地区の音楽担当の先生方による器楽アンサンブルの研究演奏が行われた。

続いて、会場を酒田市民会館小ホールに移し、秋田県吹奏楽連盟会長（元秋田県立新屋高等学校校長）高野豊昭氏を迎えての合奏講習会が、県立酒田商業高等学校吹奏楽部をモデルバンドとして行われた。

高野氏はまず、生徒が楽器を持つ前の身体的トレーニングの重要性を説き、いくつかの実践例を紹介した。

続いて合奏講習に移り、合奏においては指導者が綿密な楽曲研究をしなければならぬが、それと同時に演奏者である生徒が十分に指揮者の意図を理解し、演奏に臨む必要があることを話された。

長年に渡り指導する吹奏楽部をコン

クール全国大会に導き、金賞も受賞された高野氏の講演は、実践的であり充実したものとなった。

翌十三日は会場を鳥海温泉「遊樂里」に移し、県立山形西高等学校の吉田朋世教諭による研究発表「創作活動から学ぶもの——山形県児童生徒作曲コンクールへの応募を通して」が行われた。各高校による生徒の実状も様々で一律に扱いにくい創作分野であるが、生き生きと創作活動に取り組む生徒の姿が、実際の作品とともに報告された。その後、音楽専門部総会が行われた。飽海地区において、現高校数九校から五校（私立校二校を含む）への再編が予定されており、地区運営が厳しい状況となる。そこで、二〇〇九年度より隣接する田川地区と同地区を合併し、十五校からなる庄内地区を再編し、庄内地区、最北地区、村山地区、置賜地区の四地区により部会運営をしていくことが承認された。

以上により、音楽専門部研究大会は終了した。

担当 布川（北村山高校）



県合唱指導者講習会

今年度は六月二十三日、寒河江市内での小中同日開催で実施しました。

小学校の部は午前中に実技講習会として、寒河江市立寒河江中部小学校を会場に、午後は指導者講習会としてグラウンデルさがえに会場を移して行われました。講師は一年の東北音研でもゆかりの深い富沢裕先生です。参加者は約五十名。

午前中ご指導いただいた曲は富沢先生が編曲なさった「With you smile」でした。作詞者の歌詞にこめた思いの解釈の仕方、高音部、低音部の意識の持たせ方など、ユーモアを交えながら、体全体を使って精力的にご指導してくださいました。四年生の歌声もみるみる上達し、子ども達も私達も実りの多い時間となりました。

中・高等学校の部は陵東中学校を会場に、約三十名の参加で行われました。講師には泊江第四中学校の横田淳子先生をお迎えし、授業ですぐに使える合唱指導のポイントをたくさん教えていただきました。

毎日の実践に役立つ講習会でした。

担当 村山地区



新研究主題にむけて

会長 佐藤 栄起

まず、この会報の発行も第四号を数え、皆様方のご支援により大きな役割を果たしていることについて、心より感謝します。

さて、県音連の最大の使命は「研究」にあることはご承知の通りです。現在の研究主題は、東北音研最上大会の際に提示した「通い合う心、響き合う音楽」です。この主題をもとに、今年度も県内四地区及び高校部会で研究協議が展開されました。きつと様々な成果があったものと確信します。

新学習指導要領も示され、今後の音楽教育の在り方を検討する時期に合わせ、平成二十四年東北音研開催地である置賜地区の方々に、新しい研究主題を考えていただいています。理事会議での協議を経て、来年度からは全県を挙げて新研究主題に基づく研究がスタートします。今後の研究の流れとしては、二年間の各地区研究協議会、置賜地区開催の東北音研プレ大会（研究協議会）の計三年間の後に、東北音研本番を迎える運びになります。会員の皆様方のさらなるご理解とご協力をお願いいたします。

あとがき

新指導要領の先行実施にともない、センターの須藤先生に、ご協力いただき、これだけという観点で解説していただきました。忙しい時期にも関わらず、ぜひ喜んでという返事、大変ありがたうございました。今後、四観点の評価も検討するなど気になる情報もありますが、授業で「音楽大好き」な子どもを育てる点はゆるがせないはずで、子どもも先生もカンタービレです。

会報担当 色部（滝山小）

武山（山南小）
小島（山八中）